



重文 色絵雌雉香炉(左) 国宝 色絵雄雉香炉(右)

石川県立美術館の半世紀の歩み

ー収集した名品・名作を一挙公開ー

旧前田邸を飾った近代絵画

前田育徳会尊經閣文庫分館

- 情報・図書コーナーから
- 映像ギャラリー
- 今年度の土曜講座
- キッズプログラム参加者募集
- 平成21年度の新収蔵品
- 第8回美術館バスツアー参加者募集
- 5月の行事
- 所蔵品紹介

石川県立美術館の半世紀の歩み

— 収集した名品・名作を一挙公開 —

主催／石川県立美術館

平成22年4月25日(日)～5月16日(日)会期中無休

石川県立美術館は、平成二十年のリニューアルにより機能、設備をさらに充実させたことを機に「石川県の伝統的個性を生かした地方色豊かな美術館として、美術文化活動の中核的な役割を果たし、生涯学習の場として、県民の憩いとくつろぎの場として利用されることを目指す」との運営コンセプトを改めて掲げました。

一九五九年に開館した石川県美術館は、戦後国公立美術館の整備が徐々に進んでいった流れの中で、大都市圏を離れた地域の本格的な美術館として注目されました。そして一九八三年に石川県立美術館が開館すると地域に密着したその運営方針は、一九八〇年代全国に美術館、博物館の建設が相次ぎ、その多くが印象派の絵画などを目玉展示としていた中で、「石川県立美術館方式」としてその独自性が高く評価されました。

このたびの展覧会は、半世紀にわたる石川県立



重文 色絵梅花図平水指 野々村仁清



重文 西湖図 秋月等観



蓬菜之棚 松田権六



裸女達に捧ぐ 宮本三郎

石川県立美術館は、平成二十年のリニューアルにより機能、設備をさらに充実させたことを機に「石川県の伝統的個性を生かした地方色豊かな美術館として、美術文化活動の中核的な役割を果たし、生涯学習の場として、県民の憩いとくつろぎの場として利用されることを目指す」との運営コンセプトを改めて掲げました。

美術館のコレクションの経過報告として収集した名品、名作を一挙に公開するものです。奈良時代から現代にいたる美術工芸の至宝の数々をご堪能いただき、さらなるご支援をお願いします。

開館時間 午前九時三〇分～午後六時
土曜日は午後七時まで
(入場は終了三〇分前まで)

関連行事 毎週日曜日午前十一時よりギャラリートークを行います。観覧料が必要です。

◆観覧料

団体		個人			
小中高	大学生	一般	小中高	大学生	一般
一〇〇円	四〇〇円	六〇〇円	二〇〇円	六〇〇円	八〇〇円

※団体は二十名以上



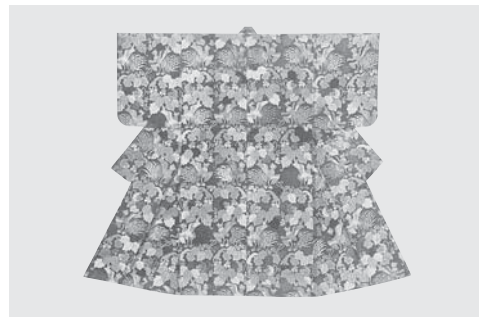
石川県立美術館テープカット



石川県美術館

旧前田邸を飾った 近代絵画

4月25日(日)～5月16日(日)会期中無休



重文 緑地桐鳳凰文唐織

主な出品作品

- 国宝 「色絵雉香炉」 野々村仁清
- 重文 「色絵雌雄香炉」 野々村仁清
- 重文 「色絵梅花図平水指」 野々村仁清
- 重文 「蒔絵和歌浦図見台」 伝清水九兵衛
- 重文 「西湖図」 秋月等観
- 重文 「四季耕作図」 久隅守景
- 重文 「緑地桐鳳凰文唐織」 松田権六
- 「蓬萊之棚」 木村雨山
- 「麻地友禪瓜模様振袖」 十代大樋長左衛門
- 「輪花 花器」 吉田三郎
- 「山羊を飼う老人」 横山大観
- 「長江の朝」 宮本三郎
- 「裸女達に捧ぐ」

学芸員の眼

ヨーロッパの中小の都市を訪れると、大抵中央駅から歩いて行けるところに美術館や博物館があります。そこには、たとえば旧領主のコレクションとして著名な画家の作品などがさりげなく展示されており、思わぬ出会いに幸せな気持ちになることがしばしばあります。このように歴史に育まれた地域の文化を集積し、展示という形で公開することによって、言葉や統計的な数値ではなかなか言い表せない地域の個性をわかりやすく伝えることができます。石川県立美術館が国内の人々から広く愛好されているゆえんも、こうした運営方針にあるということができます。それはまた、現在住んでいる地域の新たな魅力を発見し、愛着を深めるよい機会ともなります。

本郷邸を新築し行幸啓を迎えるという十五代利嗣侯の宿願を継いだ十六代利爲侯は、和館を明治三十八年に、洋館を四十年にそれぞれ新築し、四十三年七月に行幸啓を迎えることができました。前田育徳会が所蔵するほとんどの西洋絵画は、この新築に合わせて洋館の装飾用に揃えられたものです。洋館装飾学をフランスで学んだ野口駿尾に洋館の装飾を依頼し、そのアドバイスのもとで、東西美術文化の交流に寄与した富山県出身の林忠正が収集した洋画二十四点を購入しています。今回展示する「緑野に三美人」（当館初公開）はその中でも大作で、木陰でくつろぐ三人の婦人を、やわらかな陽光が優しく包む、詩情豊かな作品です。作者のラファエル・コラン（一八五〇～

一九一六）はフランスの画家で、パリの国立美術学校で、ブーグロー、カバネルに学び、一八七三年のサロンに出品した「眠り」が入選、画壇に登場しました。作風は、はじめ厳格なデッサンと明暗法を基調としたアカデミックなものでしたが、そこに印象派風の明るい外光描写を折衷し、大衆に広く受け入れられました。藤雅三、黒田清輝、久米桂一郎をはじめとして、パリでコランに師事した日本人画学生は多く、明治後期の日本洋画壇の形成に大きな影響を与えた画家です。また、林忠正とも親しくしていた日本美術愛好家でもあり、浮世絵と自作の油彩画を交換したりもしています。本展は油彩画を中心に、行幸啓の記念事業として制作された「臨幸画卷」など十七点を展示します。

緑野に三美人図 ラファエル・コラン

情報・図書コーナーから

●新着図書案内

毎年、各地の美術館や博物館において、数多くの展覧会が開催され、それに合わせて図録が作成されることが一般的になっていきます。一昔前に比べると、図録は豪華さを増し、オールカラーの鮮明な写真が掲載され、また解説もその時点での最新情報が盛り込まれており、美術資料として価値の高いものとなっております。当館には、各地の施設から様々な図録が贈られてきます。現在では、一万冊を超える数となっております、当館の蔵書の大きな特徴の一つということができます。

そうした図録を手軽にご覧いただく機会はありませんが、情報・図

書コーナーの一角に、新着図書コーナーを設け、最近収蔵された図録等を開架することにしたので、ご来館の折にはお立ち寄り下さい。

今月は、左記の展覧会図録を中心に、開架する予定です。

○「絵画と写真の交差―印象派誕生の軌跡」
会期／二〇〇九年一月三十日～三月二十五日
会場／北海道立帯広美術館（他に巡回）

内容／印象派誕生の文化史的な背景を、十九世紀に誕生した『写真』とのかかわりの中で探ろうとする企画で、油彩画版画・写真など約三八〇点で構成されました。

○「ルーヴル美術館展

―美の宮殿の子どもたち―

会期／二〇〇九年三月二十五日～六月一日
会場／国立新美術館（他に巡回）

内容／ルーヴル美術館の膨大なコレクションの中から、『子ども』をテーマにした、古代から十九世紀にわたる選りすぐりの作品を約二二〇点、展示しました。

○「国宝 阿修羅展」

会期／二〇〇九年三月三十一日～六月七日
会場／東京国立博物館（他に巡回）

内容／興福寺の創建一三〇〇年を記念し、これまで門外不出とされた阿修羅像を中心に、名宝を展示しました。

映像ギャラリー

リニューアルオープン以来、北陸に数台しかないプロジェクターと最新の音響システムで高画質・高音質をお楽しみいただいているビデオ上映会です

五月は、次のビデオを上映する予定です。

◆五月九日（日）

日本の美 1 滲みの感覚（二五分）

日本人の愛好する美的感覚の一つである滲みの表現に注目し、その不定形な美を代表的な美術・工芸品を通して紹介します。

◆五月十六日（日）

日本の美 3 風月のデザイン

遠像と近像（二六分）

日本の絵画に特徴的な、対象に密着した視点のもとに表現された風月のデザインのうちに、日本美の特質を追究します。

日本の美 2 空間のドラマ

厳島神社管絃祭（二七分）

厳島神社で千年もの間、連綿として伝わる管絃祭の、華麗で荘厳な空間演出の中に、日本人の宇宙観を見ていきます。

日本の美 4 日本の色

王朝装束より（二六分）

日本の色の原点を平安時代に求め、装束の色彩の中に、自然と呼応した日本人の繊細な感性を見ていきます。

※いずれも、午後一時三〇分から美術館ホールにて、二本続けて上映します。

「入場無料」

今年度の土曜講座

例年当館では、学芸員が交替でそれぞれテーマを設けて、土曜講座を行ってきました。昨年度は五月から九月にかけての前期に、「日本美術史」というテーマを設け、古代から現代に至る絵画・彫塑・工芸の各分野の流れや特質などを、ほぼ時代を追って十五回にわたり講義しました。十月から三月までの後期には、各学芸員が自由なテーマで十三回講座を行いました。本年度は、三回予定されている当館企画展が、春は「石川県立美術館の半世紀の歩み」、秋は「加越能の美術（古美術部門）」、新春は「加越能の美術（近現代部門）」と、それぞれ石川ゆかりの美術に関係した内容であることから、土曜講座も一年を通してそれに合わせる形で行いたいと思います。ただ、前年のような時代を追った通史的な内容のものではなく、各学芸員が専門とするジャンルにおける郷土の美術について、多岐に渡るテーマを予定しています。「石川の美術史」ともいえる大きな主題のもとに、作家論や作品論、時代背景や風土との係わりなど、郷土の美術文化について理解を深めるよりよい機会となることを目指しています。

受講は無料で、ご自分の聴講したい講座を自由に選んで参加できますので、どうぞ気軽にお越し下さい。

ちなみに、今年度前半期の土曜講座は、下記の内容を予定しております。

平成二十二年 土曜講座日程（予定） 五月～九月

回数	実施日	テーマ	担当者
第一回	五月八日	石川県立美術館のコレクション 作家・コレクターよもやま話	嶋崎館長
第二回	五月十五日	石川県立美術館 作品蒐集の変遷	西田学芸専門員
第三回	五月二十二日	茶の湯の美 所蔵品を中心に	高嶋学芸第二課長
第四回	五月二十九日	石川の肖像画 等伯から利家まで	村上学芸主任
第五回	六月十二日	石川県の仏画	谷口普及課長
第六回	六月十九日	早田楽齋と石川明治画壇	二本担当課長
第七回	六月二十六日	戦後具象彫刻 昭和30年代までの金沢を中心に	宮学芸第一課長
第八回	七月十日	石川の日本画 戦後の歩み	西田学芸専門員
第九回	七月十七日	高光一也と金城画壇	二本担当課長
第十回	九月四日	徳田八十吉三代	南学芸第一課担当課長
第十一回	九月十八日	長谷川等伯 国宝『松林図』を読み解く	村瀬学芸専門員
第十二回	九月二十五日	石川県の仏像	谷口普及課長

※都合により予定が変更になる場合もありますので、ご了承ください。

キッズ☆プログラム きじっこ茶会 参加者募集

五月三十日（日）開催のキッズ☆プログラムは、親子で参加して頂く『きじっこ茶会』です。「特集展示 茶道美術名品展」に合わせ、この展示の鑑賞とお茶会で、茶道具に親しんでいただくという企画です。参加ご希望の方は、左記に従ってお申し込みください。

◆体験講座「きじっこ茶会」

日時／五月三十日（日）

午後一時三〇分～

会場／広坂別館 和室

参加費／親子で八〇〇円

定員／各席親子十組二十人

申し込み方法／往復はがき

締め切り／五月十日（月）

往復はがきでのお申し込み方法

【往信の宛名面】

〒九二〇一〇九六三 金沢市出羽町二一

石川県立美術館 普及課宛

【往信の文面】

- ・参加希望する講座名
- ・保護者、児童の氏名
- ・学年
- ・住所、電話番号

【返信の宛名面】

住所、お名前

【返信の文面】

何も書かないでください

*定員を上回った場合は抽選となります。結果は、返信はがきでご連絡いたします。

平成21年度 新収蔵品紹介

平成21年度は、22名の方より総計49点の作品をご寄付いただきました。ご寄付を賜りました各位に改めて感謝申し上げます。

また、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。22年3月末日現在の収蔵品総数は3076点です。



見えない三つの音 開 光市



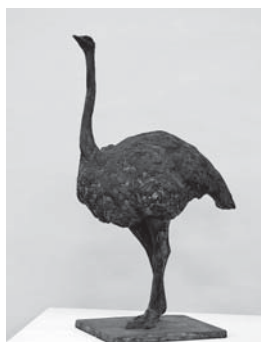
白い椿 竹沢 基



中世の町 奥田 憲三



裸婦 松本 昇



駝鳥(3) 吉田 三郎



ひとりの部屋Ⅲ 山岸 光代



静かなる動き 得能 節朗



古樹木兎図 今尾 景年



蒔絵梅椿若松図重箱 尾形 光琳



椀胎食籠 赤地 友哉

No.	区分	作品名	作者名	寄附者名
1	陶磁	鳥文装飾大壺(イラン)	作者不詳	飯野 郁子
2	漆工	蒔絵梅椿若松図重箱	尾形 光琳	松下 良
3	漆工	椀胎食籠	赤地 友哉	赤地ひさ子
4	木竹	蘇芳染竹網代飾箱	橋本 仙雪	橋本 利勝
5	木竹	松皮菱網代盆	橋本 仙雪	橋本 利勝
6	染織	友禅打掛「千代の栄」	三代中川華邨	中川 晴正
7	染織	友禅産着「石橋」	三代中川華邨	中川 晴正
8	染織	友禅産着「登龍門」	三代中川華邨	中川 晴正
9	刀剣	刀 銘清光 附 黒石目地鞆打刀拵	清光	越柴 惣一
10	刀剣	脇差 銘加州住兼若	兼若	越柴 惣一
11	日本画	田舎の朝	山下 峻嶽	山下 藤枝
12	日本画	古樹木兎図	今尾 景年	今尾 景之
13	油彩画	画室	黒田 浩	黒田 隼
14	油彩画	サン・ルーヴ	黒田 浩	黒田 隼
15	油彩画	窓辺	黒田 浩	黒田 隼
16	油彩画	石川門	奥田 憲三	奥田奈々子
17	油彩画	中世の町	奥田 憲三	奥田奈々子
18	油彩画	閑村遅日	奥田 憲三	奥田奈々子
19	油彩画	待春の丘	奥田 憲三	奥田奈々子
20	油彩画	雪の入江	奥田 憲三	奥田奈々子
21	油彩画	甦る夏	山岸 光代	山岸 光代
22	油彩画	花咲くころ	山岸 光代	山岸 光代
23	油彩画	鳴き声	山岸 光代	山岸 光代
24	油彩画	ひとりの部屋Ⅲ	山岸 光代	山岸 光代
25	油彩画	裸婦	松本 昇	松本 洋美
26	油彩画	干拓地の草	松本 昇	松本 洋美
27	油彩画	虚像	松本 昇	松本 洋美
28	油彩画	モデル立つ	松本 昇	松本 洋美
29	油彩画	大沢衛氏像	竹沢 基	大沢寿美子
30	油彩画	遠い影94-II	田井 淳	田井 淳
31	油彩画	一千の生命	田井 淳	田井 淳
32	油彩画	東 雲	田井 淳	田井 淳
33	油彩画	白い椿	竹沢 基	嵯峨 万里
34	油彩画	ラクリマ・クリスティー	西房 浩二	西房 浩二
35	油彩画	Grave-(グラブエ)-	西房 浩二	西房 浩二
36	油彩画	青い空気	開 光市	田中 廣嵩
37	油彩画	変奏曲	開 光市	田中 廣嵩
38	油彩画	刻	開 光市	開 光市
39	油彩画	架空の地図	開 光市	開 光市
40	油彩画	見えない三つの音	開 光市	開 光市
41	油彩画	吉田次太郎肖像	早田 楽斎	山崎 早苗
42	彫刻	駝鳥(3)	吉田 三郎	吉田 渉
43	彫刻	中村研一像	吉田 三郎	吉田 渉
44	彫刻	心意空間	重田 照雄	重田 照雄
45	彫刻	波にゆれる鳥	重田 照雄	重田 照雄
46	彫刻	時の流れの中で"88"	重田 照雄	重田 照雄
47	彫刻	アルゴン溶接による試作	重田 照雄	重田 照雄
48	彫刻	静かなる動き	得能 節朗	得能 節朗
49	彫刻	高光一也像	得能 節朗	得能 節朗

5月の行事

第8回美術館バスツアー参加者募集 近くて遠い福井の旅

五月三十日(日)	「きじつこ」茶会	■キッズ☆プログラム 午後一時三〇分 広坂別館和室(要申し込み)	■土曜講座 午後一時三〇分から美術館講義室
五月九日(日)	日本の美 1 滲みの感覚(二五分) 日本の美 2 空間のドラマ 厳島神社管弦祭(二七分)	■ビデオ上映会 午後一時三〇分から美術館ホール	五月八日 石川県立美術館のコレクション 作家・コレクターよもやま話
五月十六日(日)	日本の美 3 風月のデザイン 遠像と近像(二六分) 日本の美 4 日本の色 王朝装束より(二六分)		五月十五日 石川県立美術館 作品蒐集の変遷
			五月二十二日 茶の湯の美 所蔵品を中心に
			五月二十九日 石川の肖像画 等伯から利家まで
			嶋崎館長 西田学芸専門員 高嶋学芸第二課長 村上学芸主任

今回の美術館バスツアーはお隣福井県。それほど遠いわけではありませんが、福井の文化財を巡ることが少ないという方は多いようです。そこで今回は福井県坂井市(旧三国町)、福井市の美術館、文化財を巡りたいと思います。「近いけどなかなか足を運べない」そんな福井をお楽しみください。

期 日/五月二十三日(日)
(午前七時三〇分に金沢駅出発の予定です。)
参加費 / 六八〇〇円
(会員外七〇〇〇円)
募集定員 / 四十五名

見学予定地
坂井市
◆瀧谷寺
南北朝のころ創建の古刹。寺宝には国宝「金銅毛彫宝相華文磬」があります。また、名勝指定の庭園も徳川中期の作庭とされ、小ぶりながら見応えがあります。

福井市

◆大安禅寺
一六五八年、福井藩主松平家の菩提所として建立。重要文化財に指定されている伝明光の羅漢図や平成二十年に重要文化財に指定された本堂をはじめとする伽藍一体も見物です。

◆福井県立美術館
企画展「市民が愛したもう一つのヨーロッパ絵画」を担当学芸員の解説で鑑賞します。また、常設展示も岩佐又兵衛を特集しており、こちらも学芸員の解説で鑑賞します。
◆一乗谷朝倉氏遺跡資料館
朝倉氏の歴史は応仁の乱に遡り、織田信長との戦いで敗北するまで百年間の栄華を誇ります。今回新たに出土された遺物をコーナー展示。学芸員の解説で朝倉氏の歴史を概観します。

◆一乗谷朝倉氏遺跡・庭園
東南約十キロに及ぶ戦国時代の城下町の跡は四〇〇年以上も埋もれ遺されてきました。復原された武家屋敷や町並みを体感することが出来ます。また国の特別名勝に指

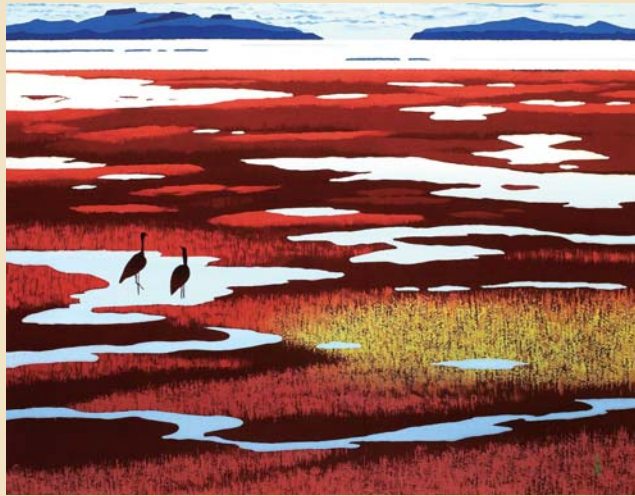
定されている庭園はまさに野趣に溢れており、往時が偲ばれます。

【申込み方法】

- ◆往復はがきに左記の事項を記入し、ご応募下さい。応募者多数の場合は抽選になります。
- ① 往信はがきの裏面に「美術館バスツアー希望」と明記し、住所、氏名、年齢、電話番号、会員番号(友の会会員のみ)をお書き下さい。
- ② 返信はがきの表面には返信先をはっきりとお書き下さい。
- ③ 返信はがきの裏面には何も書かないで下さい。

応募先
〒九二〇一〇九六三 金沢市出羽町二一
石川県立美術館バスツアー係
応募締切り/五月八日(土) 必着
※応募者一名につき、往復はがき一通で
ご応募下さい。一人で何通も出された
ものや、連名のもの、記載事項が不備
なものなどは無効となります。

堀友三郎 ほりともさぶろう 大正13年(1924)～



北海道網走市の能取湖^{のとろこ}で短い夏の到来を告げる、珊瑚草が咲き乱れる風景を表した作品です。緋毛氈のような珊瑚草と、遠方に広がる空、ところどころにのぞく湖を、コントラストの強い赤・白で染め分けて描いています。生地は平織りの滑らかな生地を用いており、夏の北海道の涼やかで澄み切った空気を、色彩と素材の両方で表現しています。極めて写実的な描写でありながら、どこか幻のようにも見える作品です。

作者はどちらかというと、やや粗い織目の生地に柔らかな色調を用いて、実在する風景に幻影を重ねた、ノスタルジックな夢のような情景を表現していました。この作品は赤と青というはつきりした色彩で、写実的な表現に徹したことにより、自然が内包する神秘を浮き彫りにしています。新たな展開を見せた作品と言えるでしょう。

堀友三郎は父が金沢出身で、大正十三年に大阪府に生まれました。昭和十六年に多摩美術専門学校図案科に入学して木村和一に師事し、十九年には光風会に初入選しました。三十一年日展に初入選し、三十五年の日展特選北斗賞をはじめとして、数々の受賞を重ねています。現在は日展参与です。

※現在第5展示室に展示中

次回の展覧会

前田育徳会尊経閣文庫分館

ご利用案内

百万石大名の装い
—甲冑・陣羽織—

会期: 5/20(木)～6/13(日)
6/17(木)～7/19(月・祝)

コレクション展観覧料
一般 350円(280円)
大学生 280円(220円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金

第2展示室

茶道美術名品展
—山川コレクションを中心に—
会期: 5/20(木)～6/13(日)

今月の開館時間
午前9:30～午後6:00
カフェ営業時間
午前10:00～午後7:00

美術館からのお願い

ようやく過ぎ越しやすい季節になってきました。さて今年も展覧会期間中は、土・日・祝日など駐車場が大変込み合います。ご迷惑をおかけすることが予想されます。まことに恐縮ですが、混雑が予想される日のご来館は、公共の交通機関をご利用いただきたくお願い申し上げます。今後とも利用者の皆様にご協力いただけるよう努力いたしております。



石川県立美術館だより 第319号
2010年5月1日発行(毎月発行)

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

5月の休館日は
17日(月)～19日(水)です